

【資料 1-4-③】

全国の過去の地震災害事例

発生年月日	地震規模	地震名	津波	最大震度	災害の概要
明応 7 (1498)年 8 月 25 日	8.4 ※推測	明応地震	○	7	室町時代後期の明応年間に起こった大地震。文献や発掘調査などから、東海・東南海・南海の三連動地震によるものと考えられている。高さ 4 m から 10m 程度の津波が房総半島から紀伊半島にかけての沿岸を襲ったといわれる。
慶長 9 (1605)年 12 月 16 日	7.9 ※推測	慶長地震	○	7	地震動による被害はほとんどなく、津波が房総、伊豆、紀伊、四国、九州を襲った。記録から推定される津波の高さは、房総と紀伊、四国で高く、静岡県沿岸で比較的低い。八丈島にも津波が襲って死者 57 人を出した。以上のことからこの地震は、房総沖と紀伊水道沖に同時に二つの地震が発生したものと考えられてきたが、南海トラフ沿いの遠州灘（えんしゅうなだ）はるか沖合に一つの巨大地震が起きたという考えも出ている。
宝永 4 (1707)年 10 月 28 日	8.6 ※推測	宝永地震	○	7	日本の歴史上最大級の地震。マグニチュードは 8.6 と推測される。遠州灘沖と紀伊半島沖を震源とする二つの大地震が同時に発生したと考えられ、東海道・伊勢湾・紀伊半島が最も大きな被害を受けた。 死者約 2 万人。家屋倒壊約 6 万棟、流失約 2 万棟といわれる。
嘉永 7 (1854)年 12 月 23 日	8.4 ※推測	安政地震	○	7	安政年間(1854 - 60)に起こった地震で、次の三つが著名。1854 年 12 月 23 日(安政 1 年 11 月 4 日) 9 時すぎに安政東海地震(安政地震 I)が遠州灘沖に発生した。震源域は遠州灘沖から駿河湾内の全長 200km 以上の海域におよんでいることが明らかとなった。有感地域は岩手県から九州におよんでいる。被害のひどかったのは、沼津から浜松に至る沿岸よりの地域と、富士川沿いに甲府盆地におよぶ地域であるといわれる。
明治 24 (1891)年 10 月 28 日	8.0	濃尾地震		6	6 時 37 分、岐阜・愛知を中心に起きた大地震。明治年間最大の地震で、根尾谷断層が出現。この地震を機会に震災予防調査会が発足した。 死者 7273 人、全壊家屋約 14 万棟
明治 29 (1896)年 6 月 15 日	8.2	明治三陸地震	○	2～3	19 時 32 分発生。ゆっくりとした長い揺れで震度はさほど大きくなかったため、ほとんどの人が早期避難しなかった。35 分後、大津波が三陸沿岸を襲い、大船渡市の一部では津波の高さは 30m を超えたとされる。 死者 21,959 人、家屋被害(流出・全壊・半

					壊・浸水) 1 万棟以上
大正 12 (1923) 年 9 月 1 日	7.9	(関東大 震災)	○	6	11 時 58 分頃に、相模湾を震源として発生した大地震により、関東一円に被害を及ぼした災害。家屋倒壊に火災を伴い、死者・行方不明者約 10 万 5 千人、家屋全壊 10 万 9 千棟余り、焼失 21 万 2 千棟余り
昭和 8 (1933) 年 3 月 3 日	8.1	昭和三陸 地震	○	5	2 時 32 分、三陸沖で発生。地震による被害は少なかったものの、津波が太平洋岸を襲い、津波高は綾里湾で 28.7m にも達した。三陸沿岸の被害は極めて大きく、死者・行方不明者 3,064 名、家屋流出・倒壊・浸水などの被害が約 1 万戸にも及んだ。
昭和 18 (1943) 年 9 月 10 日	7.2	鳥取地震		6	17 時 36 分、鳥取市を震源。この地震によって長さ 8 km の鹿野断層と、長さ 4.5km の吉岡断層が出現した。 死者 1,083 名、負傷者 3,259 人、家屋全壊 7,485 棟
昭和 19 (1944) 年 12 月 7 日	7.9	東南海地震	○	6	13 時 35 分、熊野灘を震源とする地震が東海・近畿地方を襲った。熊野灘沿岸で 6～8 m、遠州灘沿岸で 1～2 m の津波が発生。紀伊半島東岸では 30～40cm 地盤が沈下した。 死者 1,200 人以上、住宅全壊 16,000 棟以上
昭和 20 (1945) 年 1 月 13 日	6.8	三河地震	○	5	3 時 38 分、三河湾を震源とする地震が発生。東北地方から九州地方まで揺れを感じ、規模の割に大きな被害となった。愛知県下の矢作川下流域に位置する幡豆・碧海郡を中心に被害が集中した。死者 2,306 人、負傷者 3,866 人、家屋全半壊 23,776 棟
昭和 21 (1946) 年 12 月 21 日	8.0	南海地震	○	5	4 時 19 分、和歌山県南方沖を震源とし、高知県の沿岸部を中心に甚大な津波被害をもたらした。この地震では、近畿地方、四国、大分市、境港市、福井市、岐阜市で震度 5 を観測。死者 1,330 人、負傷者 3,842 人、住宅全半壊 28,274 棟、家屋流出 1,451 棟、家屋焼失 2,598 棟
昭和 23 (1948) 年 6 月 28 日	7.1	福井地震		6	16 時 13 分、福井平野の浅い所で発生し都市を直撃した強い活断層地震。福井県で死者 3,728 人、家屋全壊 35,382 棟。地震の直後から火災が多発し、福井県では 3,851 が焼失。
昭和 35 (1960) 年 5 月 23 日	9.5※1	チリ地震 (津波)	○	-	日本時間 4 時 11 分、チリ近海で観測史上最大の地震が発生。津波は 15 時間後にハワイ、23 時間後に日本に到達し、三陸海岸を中心に全国で死者 119 人、行方不明 20 人、負傷者 872 人、家屋全壊 2,002 棟、家屋半壊 1,991 棟、家屋流出 1,257 棟、床上床下浸水 41,652 棟
平成 7 (1995) 年	7.3	(阪神・ 淡路大震	○	7	5 時 46 分、神戸市を中心とした阪神地域に被害を及ぼした。神戸市と洲本市で震度 6

1 月 17 日		災)			を観測したほか、東北地方南部から九州地方にかけての広い範囲で有感となった。鉄道・高速道路なども大きな被害を受けた。 死者 6,434 名、行方不明 3 名、負傷者 43,792 名、住家全壊 104,906 棟、住家半壊 144,274 棟、全半焼 7,132 棟
平成 15 (2003) 年 9 月 26 日	8.0	十勝沖地震	○	6 弱	4 時 50 分、釧路沖を震源として発生した逆断層型プレート間地震。北海道から東北地方の太平洋沿岸に最大約 4 m を超える津波が襲来し被害。 死者 1 人、行方不明者 1 人、負傷者 849 人、家屋全壊 116 棟、家屋半壊 368 棟、一部損壊 1,580 棟、床下浸水 9 棟
平成 16 (2004) 年 10 月 23 日	6.8	新潟県中越地震		7	17 時 56 分、新潟県中越地方を震源とする逆断層型地震。北魚沼郡川口町（現長岡市）で震度 7 を観測した。大規模な余震が続き、地震発生前の長雨による地盤の緩みと重なって、地滑りなどの被害が拡大した。 死者 68 人、負傷者 4,805 人、住家全壊 3,175 棟、住家半壊 13,810 棟、住家一部破損 105,682 棟、建物火災 9 棟
平成 19 (2007) 年 3 月 25 日	6.9	能登半島地震	○	6 強	9 時 41 分、能登半島沖を震源とする逆断層型地殻内地震。石川県内の 3 市町で震度 6 強を観測した。 死者 1 人、負傷者 356 人、家屋全壊 686 棟、半壊 1,740 棟
平成 19 (2007) 年 7 月 16 日	6.8	新潟県中越沖地震	○	6 強	10 時 13 分、新潟県上中越沖を震源とする地震が発生。長岡市、柏崎市、刈羽村と長野県上水内郡飯綱町で最大震度 6 強を記録した逆断層型地殻内地震。柏崎刈羽原子力発電所も被害。 死者 15 人、負傷者 2,346 人、家屋全壊 1,331 棟、半壊 5,710 棟、一部損壊：37,633 棟
平成 20 (2008) 年 6 月 14 日	7.2	岩手・宮城内陸地震		6 強	8 時 43 分、岩手県内陸南部を震源とする地震が発生。岩手県奥州市と宮城県栗原市で最大震度 6 強を観測した。土砂災害による被害が大きかった。 死者 17 人、行方不明者 6 人、負傷者 426 人、家屋全壊 30 棟、半壊 146 棟
平成 23 (2011) 年 3 月 11 日	9.0	東北地方太平洋沖地震	○	7	14 時 46 分、三陸沖を震源として発生した地震。宮城県栗原市で最大震度 7 を観測。巨大津波を引き起こし、沿岸部を中心に甚大な被害が出た。 津波は東北地方の沿岸部では最高潮位 9.3m、遡上高 40.5m に達する巨大津波が発生した。 死者 19,747 人、行方不明者 2,549 人、負傷者 6,254 人で、物的被害は、全壊 122,204 棟、半壊 287,896 棟、一部損壊 749,016 棟
平成 28	6.5	熊本地震		7	21 時 26 分、熊本県熊本地方を震源とする

(2016)年 4月14日 4月16日	7.3				地震が発生。熊本県益城町で震度7を観測。その約28時間後の4月16日1時25分に同じ熊本県熊本地方でマグニチュード7.3の地震が発生、熊本県西原村と熊本県益城町で再び震度7を観測。2日間のうちに同一観測点で震度7を2度も観測したのは、観測史上初めて。 死者273人、負傷者2,809人、家屋全壊8,667棟、半壊34,719棟、一部破損163,500棟
平成30 (2018)年 9月6日	6.7	北海道胆振東部地震		7	3時7分、北海道の胆振地方中東部を震源とする地震が発生。最大震度は厚真町の震度7で、北海道で観測史上初めて震度7を記録。数日前からの降雨により地盤が緩んでいるところに地震が発生したため、土砂災害を誘発した。また、北海道の発電所が停止したことにより、北海道のほぼ全域でブラックアウト（停電）が発生した。 死者43人、負傷者782人、家屋全壊469棟、半壊1,660棟、一部破損13,849棟
令和6 (2024)年 1月1日	7.6	令和6年能登半島地震	○	7	16時10分、石川県能登地方に地震が発生。石川県の志賀町及び輪島市で震度7を、能登地方の広い範囲で震度6以上の揺れを観測。地震による建物の倒壊・損壊に加え、輪島市では市街地の火災による「複合災害」が発生。石川県珠洲市、能登町及び志賀町の3市町、新潟県上越市では、津波により約200haが浸水した。また、石川県、富山県、新潟県の広い範囲で、液状化による被害が発生。 死者720人、行方不明者2人、負傷者1,407人、家屋全壊6,536棟、半壊23,707棟、一部半壊135,545棟

※1 地震の規模（マグニチュード）、ただしチリ地震津波はモーメントマグニチュード。

※2 1922年以前の地震の震度については気象庁の震度データベースには収録されていないため、地震の最大震度については、地震報告・地震年報・気象要覧（中央气象台）によるものを括弧付きで記載している。

なおこの期間の震度は、微・弱・強・烈の階級で記載してあるので、これに対応する震度を、1～6におきかえて表現してある。